

ナサニエル・ホーソーン研究
Working Checklist: 2008-2009

川村 幸夫 (東京理科大学)
大野 美砂 (東京海洋大学)
奈良裕美子 (明治大学・非)

I. Books

- 阿野文朗『ナサニエル・ホーソーンを読む—歴史のモザイクに潜む「詩」と「真実」』研究社 (2008)
- 入子文子・林以知郎 (編著) 『独立の時代—アメリカ古典文学は語る』世界思想社 (2009)
- 越智道雄 (監修) 『9.11 とアメリカ—映画にみる現代社会と文化』鳳書房 (2008)
- 紀平英作 (編著) 『アメリカ民主主義の過去と現在—歴史からの問い—』ミネルヴァ書房 (2008)
- 巽孝之『思い出のブックカフェ—巽孝之書評集成』研究社 (2009)
- (編著) 『反知性の帝国—アメリカ・文学・精神史』南雲堂 (2008)
- 寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也 (編著) 『アメリカ文学案内』朝日出版社 (2008)
- Mukai, Kumiko. Hawthorne's Visual Artists and the Pursuit of a Transatlantic Aesthetics. Peter Lang, 2008.

II. Bibliographies

III. Translations

- 山本雅 (訳) ポール・ボイヤール/スティーヴン・ニッセンボーム著『呪われたセイレム—魔女呪術の社会的起源—』溪水社 (2008)

IV. Articles

- 青井格「罪と裁き—Nathaniel Hawthorne 作“Young Goodman Brown”の「解釈」」
『かやのもり』8 近畿大学産業理工学部(2008) pp. 23-28.
- 井坂義雄「“Young Goodman Brown”の地方性」『PHOEBUS』7 法政英語英米文学研究会(2004) pp. 5-16.
- 「“My Kinsman, Major Molineux”—文学史からの解放——」『伊藤廣里教授傘寿記念論集』
伊藤廣里教授傘寿記念論集刊行会(2007) pp. 175-85.
- 「“Roger Malvin's Burial”—方法の模索——」『異文化』8 法政大学国際文化学部(2007) pp. 7-24.
- 今井沙都希「『緋文字』—作品における「罪」について」『弘前学院大学英米文学』32 弘前学院大学英語英米文学会(2008) pp. 34-40.
- 入子文子「ホーソーンの〈ジョージ・ワシントン〉—歴史と詩的想像力の交錯—」『アメリカ研

究』45

アメリカ学会(2009) pp. 1-21.

——「『ある鐘の伝記』を読む」『独立の時代』 上田みどり「イーディス・ウォートンの作品におけるホーソーン的なものを求めて」『広島経済大学研究論集』30(3・4)広島経済大学経済学会(2008) pp. 65-72.

——「E. ウォートンと N. ホーソーン作品に表れる女性——19世紀から20世紀に向かって」

『広島経済大学研究論集』31(3)広島経済大学経済学会(2008) pp. 3-14.

大野美砂「Aylmer のホワイトネス構築——痣と真の女性」『Soundings』34 サウンディングズ英語英米文学会(2008) pp. 131-143.

岡崎臣博「“Rappaccini’s Daughter”における「善」と「悪」の問題——善が悪となり、悪が善となる世界」『サピエンチア』42 聖トマス大学(2008) pp. 179-195.

熊田岐子「ホーソーン児童向け作品『ワンダー・ブック』の対象年齢——「黄金に変える手」を中心に」

『英語英文学研究』33(2)創価大学英文学会(2009) pp. 97-109.

小泉朝子「ホーソーンとギヤスケル——堕ちた女の表象をめぐって」『フォーラム』14

日本ナサニエル・ホーソーン協会(2009) pp. 23-39.

島田太郎「“Feathertop”試論——ホーソーンの全体像というコンテキストの中で」『学苑』816

光葉会、昭和女子大学、昭和女子大学近代文化研究所、昭和女子大学光葉会(2008) pp. 1-9.

鈴木繁「「大望ある客人」と「大望ある乗客」——ナサニエル・ホーソーンと中井英夫」『九州アメリカ文学』49 九州アメリカ文学会(2008) pp. 11-20.

——「「原罪」を探す子供たち——交差するナサニエル・ホーソーンと中井英夫(1)」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』13(2)佐賀大学文化教育学部(2009) pp.121-135.

鈴木元子「カルチュラル・スタディーズで読むホーソーンの“My Kinsman, Major Molineux”——『夏の夜の夢』, 五月祭, 祝祭の笑いから——『静岡文化芸術大学研究紀要』9 静岡文化芸術大学(2009) pp. 1-8.

高島まり子「ホーソーン作品における「父」と「息子」の諸相——『七破風の屋敷』を中心に」『鹿児島女子大学短期大学紀要』43 鹿児島女子短期大学(2008) pp. 179-190.

高島真理子「エドワード・ハウスとの交遊に見るマーク・トウェインの日本——一八七〇年代を中心に」

『マーク・トウェイン研究と批評』7 日本マーク・トウェイン協会(2008) pp.65-78.

高瀬祐子「*The House of the Seven Gables*における遺産相続と再生産」『成蹊人文研究』16 成蹊大学大学院文学研究科(2008) pp. 1-21.

高梨良夫「エマソンの“Moral Sentiment”と朱子の「敬」——コトバとの関係をめぐって——」『ヘンリー・ソロー研究論集』34 日本ソロー学会(2008) pp. 21-30.

高野泰志「敷居に立つヘスター・プリナー——『緋文字』における性欲の感染」『フォーラム』14

日本ナサニエル・ホーソーン協会(2009) pp. 1-22.

高橋利明「ホーソーンの「赦されざる罪」——イーサン・エイハブ・ヨブをめぐって」『研究紀要』75 日本大学文理学部人文科学研究科(2008) pp. 55-66.

- 竹村和子「ジェンダー・レトリックと反知性主義」『反知性の帝国』 pp. 177-210.
- 巽孝之「アメリカ文学と反知性主義の伝統」『反知性の帝国』 pp.19-58.
- 田中久男「フォークナー文学と反知性主義——構造化されたヴィジョン」『反知性の帝国』 pp.225-252.
- 「南部—マーク・トウェインの内なる他者とそれとの和解」『マーク・トウェイン研究と批評』7 日本マーク・トウェイン協会(2008) pp.41-50.
- 富樫壮央「ナサニエル・ホーソーン「あざ」におけるその実体」『麗沢大学紀要』86 麗沢大学(2008) pp. 1-12.
- 中垣恒太郎「アメリカ文化における「日本」表象の変遷——『ロスト・イン・トランスレーション』」『9.11 とアメリカ』 pp. 174-196.
- 「医療問題とポスト 9.11 における暴力の機能——『ジョン Q』」『9.11 とアメリカ』 pp. 222-244.
- 中野学而「やさしい巨人がたくさん—『オ・ヤサシ巨人 BFG』ロアルド・ダール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』ラブレール『ガリヴァー旅行記』スウィフト『緋文字』ホーソーン「この世で最も美しい水死人」
- ガルシア=マルケス (特集：(子ども)の文学 100 選——(子ども)の文学 75 選テーマ別)『國文學：解釈と教材の研究』53(12 臨増)學燈社(2008) pp. 116-120.
- 丹羽隆昭「ホーソーンと『偉大な石の顔』」『英文学評論』80 京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会 (2008) pp. 1-19.
- 「ホーソーンと「父親」」『Albion』54 京大英文学会(2008) pp. 64-87.
- 「ホーソーンと民主主義」『アメリカ民主主義の過去と現在』 pp. 67-95.
- 萩原力「寡黙の作家ナサニエル・ホーソーン」『専修人文論集』84 専修大学学会(2009) pp. 315-28.
- 藤田佳子「エマソンの山岳詩にみるロマン主義のかたち」『ヘンリー・ソロー研究論集』34 日本ソロー学会(2008) pp. 11-20.
- 真木彰子「シェイクスピアとホーソーン——『オセロー』と『ブライズデイル・ロマンス』に見る男の絆が孕むもの」
- 『Tsurumi review』38 鶴見大学英語英文学会(2008) pp. 19-32.
- 松阪仁伺「『大理石の牧神』と神話とカーニヴァル」『兵庫教育大学研究紀要』32 兵庫教育大学(2008) pp. 23-31.
- 水野眞理「ヘンリー・フォザギル・チャーリー」—ヴィクトリア朝におけるホーソーンの発見——『文学と評論』3-6 (2008) pp. 11-26.
- 宗形賢二「スパイク・リーのポップ社会学——人種混交と『ジャングル・フィーバー』をめぐって」『9.11 とアメリカ』 pp. 129-152.
- 山下昇「トウェインとフォークナーの南部」『マーク・トウェイン研究と批評』7 日本マーク・トウェイン協会(2008) pp.51-61.
- 渡辺佳余子「『ブライズデイル・ロマンス』に描かれた女権拡張運動への共感」『東京成徳短期大学紀要』41 東京成徳短期大学(2008) pp. 109-118.

Ikuta, Kazuya “The Romantic Child in the American Home: Hawthorne’s Violet, Peony, and Annie”

『比較社会文化研究』23 九州大学大学院比較社会文化学府(2008) pp. 93-101.

Sakamaki, Tomomi “The Polluted Redeemer: Love, Sin and Puritan Society in *The Scarlet Letter*”

『Paulownia review』14 大東文化大学大学院文学研究科英文学専攻(2008) pp. 9-17.

Takao, Naochika “Sex and the City: The Reconstruction of Middle-Class Urban Consciousness in

The Scarlet Letter” 『The Japanese Journal of American Studies』19 アメリカ学会(2008) pp. 25-42.

V. Reviews

大野美砂『エコトピアと環境正義の文学——日米より展望する広島からユッカマウンテンへ——』

(スコット・スロヴィック・伊藤詔子・吉田美津・横田由理編著) 『フォーラム』14

日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 75-80.

倉橋洋子『ナサニエル・ホーソンを読む——歴史のモザイクに潜む「詩」と「真実」——』(阿野文

朗著) 『フォーラム』14 日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 55-59.

佐々木英哲『ホーソンとその時代——アメリカ文化史のある断面』(小林憲二著) 『フォーラム』

14

日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 61-67.

高尾直知『アメリカ民主主義の過去と現在——歴史からの問い』(紀平英作編著) 『フォーラム』14

日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 69-74.

成田雅彦『ナサニエル・ホーソンを読む——歴史のモザイクに潜む「詩」と「真実」——』(阿野
文朗著)

『英語青年』154(9) 研究社(2008) p.546.

野田研一『反知性の帝国——アメリカ・文学・精神史』(巽孝之編著) 『英語青年』154(7) 研究社

(2008) p.418.

堀内正規『アメリカン・ルネサンスの現在形』(増永俊一編著) 『アメリカ文学研究』45

日本アメリカ文学学会(2008) pp. 156-162.

堀切大史 *Hawthorne and Melville: Writing a Relationship* (Jana L. Argersinger and Leland S. Person 編
著) 『フォーラム』14 日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 49-54.

増永俊一 *Adapting Nathaniel Hawthorne to the Screen: Forging New Worlds* (Lawrence Raw 著)

『フォーラム』14 日本ナサニエル・ホーソン協会(2009) pp. 41-48.

VI. Essays & Miscellanies

入子文子「関西支部研究会」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) p. 13.

川村幸夫「資料室だより」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) pp. 15-16.

倉橋洋子「中部支部研究会」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) p. 13.

當麻一太郎「会長挨拶」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) p.1.

高尾直知・中村文紀「国際渉外室だより」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) p. 16.

高島まり子「九州支部研究会」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) pp. 13-14.

高橋利明「東京支部研究会」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) p. 12.

——「事務局だより」 『NHSJ Newsletter』27 (2009) pp. 16-17.

成田雅彦「編集室だより」『NHSJ Newsletter』27（2009）p.15.

Arai, Keiko, Junko Araki, Shitsuyo Masui, and Naochika Takao. “Hawthorne and Social Reform Movements.”

『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 9-10.

Koizumi, Asako. “Hawthorne and Gaskell—On Representations of Fallen Women in *The Scarlet Letter* and Ruth—.” 『NHSJ Newsletter』27（2009）p.2.

Masunaga, Toshikazu. “Hawthorne’s Politics: Political Power Shift and the Dynamics of the Gaze.”

『NHSJ Newsletter』27（2009）p.3.

Murata, Kimiko. “Hawthorne’s perspective through the Gothic Devices in ‘My Kinsman, Major Molineux.’” 『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 4-5.

Suzuki, Makoto. “A Study of Robin in ‘My Kinsman, Major Molineux’: in Relation to A *Midsummer Night’s Dream*, May-Day, and *Robin Hood*.” 『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 3-4.

Takemura, Kazuko. “From Death to Life and Politics.” [Book News] 『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 10-12.

Uchibori, Naoko. “Appropriation of the ‘Fair Lady’ vis-à-vis the ‘Fair Man’: A Reading of Hollingsworth’s Complexity in *The Blithedale Romance*.” 『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 1-2.

Yamamoto, Masashi. “Salem Witchcraft Episode and Hawthorne’s Creative Method: The Origin, Development, and Disappearance of Hawthorne’s ‘Environment’ in His Works.” 『NHSJ Newsletter』27（2009）pp. 5-8.

追記：記載漏れの論文等もあろうかと存じます。お気づきの点などございましたら、資料室担当者までお知らせください。論文等ご執筆の際には、資料室に一部お送りくださるか、タイトルなどをお知らせ願えれば幸いに存じます。ご協力いただいた方々に感謝いたします。（川村）